

小学校

平成 13 年 度

教育研究員研究報告書

国	語
---	---

東京都教職員研修センター

平成13年度

教育研究員名簿

低 学 年	足立区	皿沼小	☆ 柿沼 広美	1年
	日野市	日野第二小	中村 真理子	1年
	調布市	石原小	大和 愉子	2年

中 学 年	江東区	南砂小	田中 宏美	3年
	荒川区	第三日暮里小	◎ 大石 吉郎	3年
	江戸川区	南小岩第二小	大浅野 千鶴子	3年
	台東区	上野小	田村 純子	4年
	世田谷区	砧南小	柴沼 裕行	4年
	板橋区	上板橋小	☆ 片山 順也	4年
	江戸川区	鹿骨小	橋野 由起子	4年
	東久留米市	第一小	中岡 清子	4年

高 学 年 A	青梅市	新町小	◇ 葛西 幸子	5年
	府中市	府中第九小	☆ 武藤 紀子	5年
	練馬区	光が丘第三小	八尋 由紀子	6年
	八王子市	加住小	加藤 美穂	6年
	小平市	小平第五小	阿部	6年

高 学 年 B	大田区	久原小	石井 正美	5年
	中野区	江古田小	早乙女 通英	5年
	中央区	城東小	☆ 川島 幹雄	6年
	大田区	洗足池小	濱尾 敏恵子	6年
	杉並区	杉並第十小	接待 陽子	6年

書 写	港区	御成門小	尾形 知香	2年
	江東区	明治小	山崎 真奈美	4年
	世田谷区	松丘小	◎☆ 佐藤 静恵	4年

◎ 全体世話人 ○ 全体副世話人 ☆ 分科会世話人 ◇ 全体記録

担当 東京都教職員研修センター指導主事 鶴巻 景子

目 次

I 全体研究主題及び基本的な考え方	
1 研究主題設定の理由	2
2 研究主題に対する基本的な考え方と仮説	3
3 研究の内容	3
4 書くことをとおして「伝え合う子」	4
II 研究の概要	
1 研究の構想	5
2 各分科会の研究の概要	6
3 主題に迫る「書くこと」の基礎的・基本的な力	8
4 言語活動例を基にした単元の開発例	10
III 低学年・中学年・高学年A B分科会の実践	
1 低学年分科会	
第2学年 「おはなし たんけんたい」	12
2 中学年分科会	
第4学年 「見つけよう 砧南小の40年」	14
3 高学年A分科会	
第6学年 「幸せさがしの旅をしよう 一宮澤賢治の作品や生き方から」	16
4 高学年B分科会	
第5学年 「地球防衛隊からのメッセージ」	18
IV 書写分科会の研究内容と実践	
1 研究の内容と主題に迫る基礎的・基本的な力	20
2 書写分科会の実践	
第2学年 「たてなが よこなが どっちかな」	22
V 研究の成果と課題	24

＜ 要 約 ＞

新学習指導要領では「伝え合う力」の育成が国語科の目標の第一に挙げられている。現代社会においては、伝達内容や手段が多岐にわたり、それに応じた伝え合う力を高めることが必要である。「伝え合う力」を育てるためには、自分の確かな意見を持ち、これを的確に表現できる学習活動が重要である。

本研究は、書く活動をとおして互いの考えを尊重しながら言葉で伝え合う能力を育成する指導の在り方を究明するため、①言語活動例を基にした単元の開発 ②書くことの基礎的・基本的な力の明確化 ③伝え合う学習活動の工夫の3点に視点をあて研究したものである。

Ⅰ 全体研究主題及び基本的な考え方

全体研究主題

言葉を大切にし、伝え合う子を育てる指導の工夫 —— 書く活動をとおして ——

1 研究主題設定の理由

情報化・国際化社会を迎え、子どもたちを取り巻く環境は大きく変わろうとしている。こうした社会において、今まで以上に“人とのかかわり”が問われており、社会の変化とともに良好な人間関係を築いていかれる児童の育成が求められている。

平成14年度から実施される新学習指導要領では、言語の教育としての立場を一層重視し、国語を適切に表現し正確に理解する能力の育成とともに「伝え合う力」を高めることが示された。この「伝え合う力」は、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して適切に表現したり理解したりする力であり、これからの情報化・国際化の社会で生きて働く国語の力として、豊かな人間形成に資する国語科の重要な内容である。

「伝え合う力」を高める学習においては、音声言語と文字言語のそれぞれのねらいに即した取り組みが必要である。特に文字言語をとおした学習活動では、書くことで考えを確かめ、書いたものをもとに交流し振り返りながら考えを深めることができる。また、様々な考えを取り入れ書き続けることで新たな考えを生むという反復的・継続的な思考がなされ、自己の言葉を見つめながら「伝え合う力」を高めていくこともできる。

そこで、従来から「伝え合う力」を高めるといって音声言語に偏りがちであった指導を、本研究では「言葉を大切にし伝え合う子を育てる」視点で「書くことをとおして」進めていくことにした。つまり、相手意識・目的意識をもって自分の考えを明確に書いたものをとおして、伝えたり考えを受け止めたりできる子ども、書くことで自分の思いや考えをもち、進んで人とかわろうとする子どもの育成を目指したのである。

実態調査を見ると書くことが嫌いな子どもたちは「何を」「どのように」書いてよいのかが分からないことを理由に挙げている。また、書いたことが生かされた経験が少なく、自分の思いを伝えていこうという意識が育っていない子どもも多くいる。このことから、書くことの基礎・基本を押さえながら多様な書く活動を経験させ、相手意識や目的意識をはっきりもたせ伝え合うことのよさや楽しさを味わわせていくことが大切であり、こうした指導の創意工夫が必要だと考えた。言葉を大切にすることは、基礎的・基本的な言葉の力を身に付けることであり、伝え合う子を育てるとは、相互的に伝え合うという人間関係の中で言葉の力を伸ばし、互いの立場や考えを尊重する心を育てていくことである。

以上のことから、研究主題を上記のように設定し、本研究を進めることとした。

2 研究主題に対する基本的な考え方と仮説

研究主題の「言葉を大切に」「伝え合う」及び「書く活動をとおして伝え合うよさ」について、本研究では次のようにとらえた。

(1) 「言葉を大切に」とは

- 相手や場、目的や意図に応じて、適切な言葉を選んで使うこと。
- 言葉の正しい使い方を学び、日常の言語活動に生かしていくこと。
- 言葉に込められた相手の気持ちを考えること。
- 言葉に関心をもち、進んでいろいろな言葉を使い、語いを豊かにすること。

(2) 「伝え合う」とは

- 相手や目的に応じて、自分の思いや考えが伝わるように書くこと。
- 相手の思いや考えを受け止めながら読むこと。
- 相手の思いや考えに対して、自分の思いや考えを見つめ直し、広げたり深めたりして進んで伝えようとする事。
- 互いのよさや違いを認め合い、高め合うこと。

(3) 「書く活動をとおして伝え合うよさ」とは

- 自分の思いや考えを整理して明確にしたり、深めたりすることができること。
- 保存や記録ができることで、自分を振り返ることができること。
- 互いの思いや考えを文字をとおしてじっくりと交流することができること。
- 互いの表現の違いに気づき、自己表現力を伸ばすことができること。

このことから、研究仮説を次のように立てた。

研究仮説

書く活動において、目的や意図、相手に応じて適切な言葉を選んだり使ったりして表現する場を設定し、自分の考えを伝え合う学習活動を工夫することによって、言葉を大切に、伝え合う子が育つであろう。

3 研究の内容

(1) 言語活動例を基にした単元の開発

言語活動例を基にしながら、子どもの実態や興味・関心等に合わせて、子ども自身が主体的に取り組めるように、5つの意識と書いたものを生かす伝え合う場を設定した単元の開発を行った。

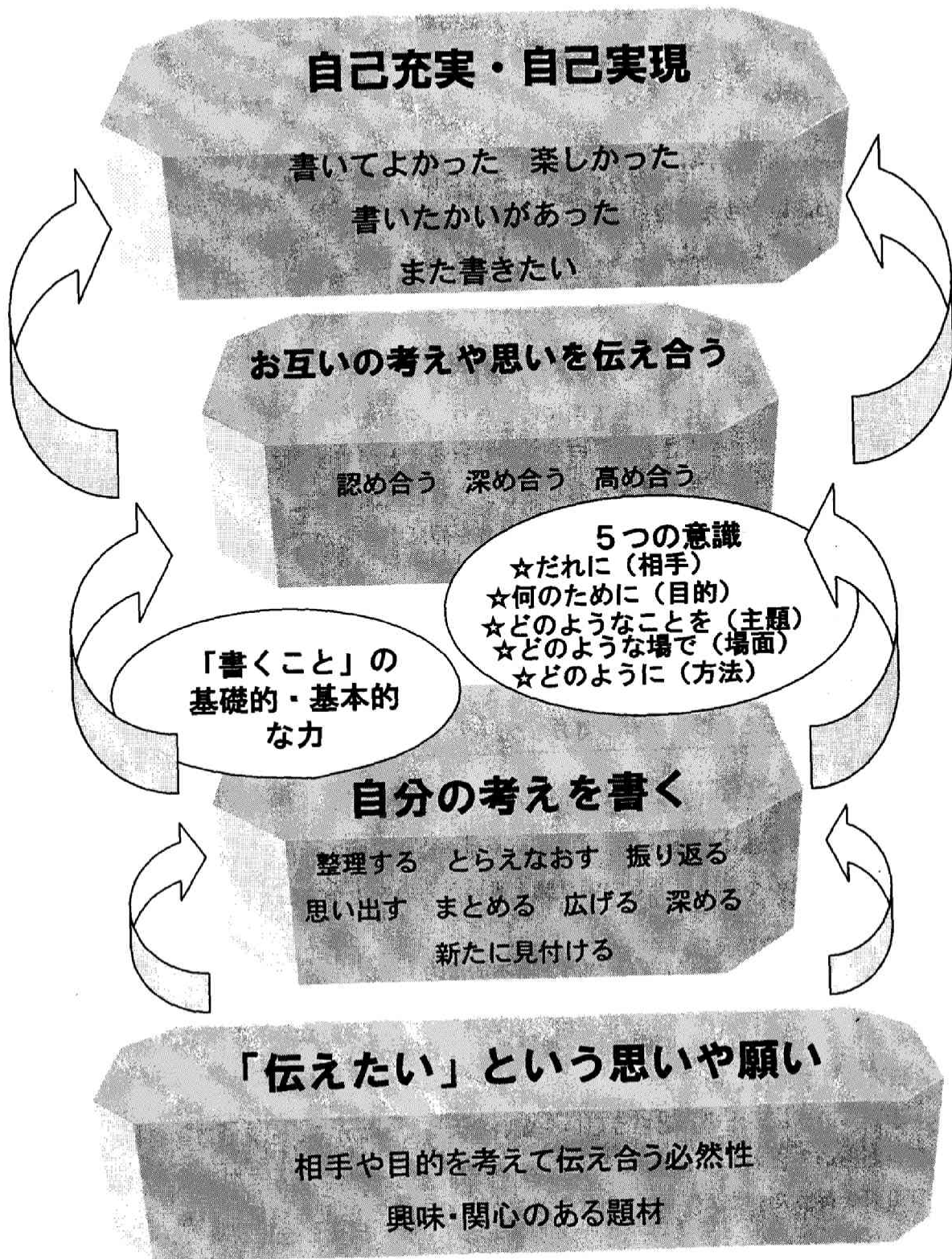
(2) 主題に迫る「書くこと」の基礎的・基本的な力

「取材」「構成」「記述」「推敲」「伝え合い」の各段階での学習活動で、「書くこと」の基礎的・基本的な力を明確にし、指導の工夫を行った。

(3) 伝え合う学習活動の工夫

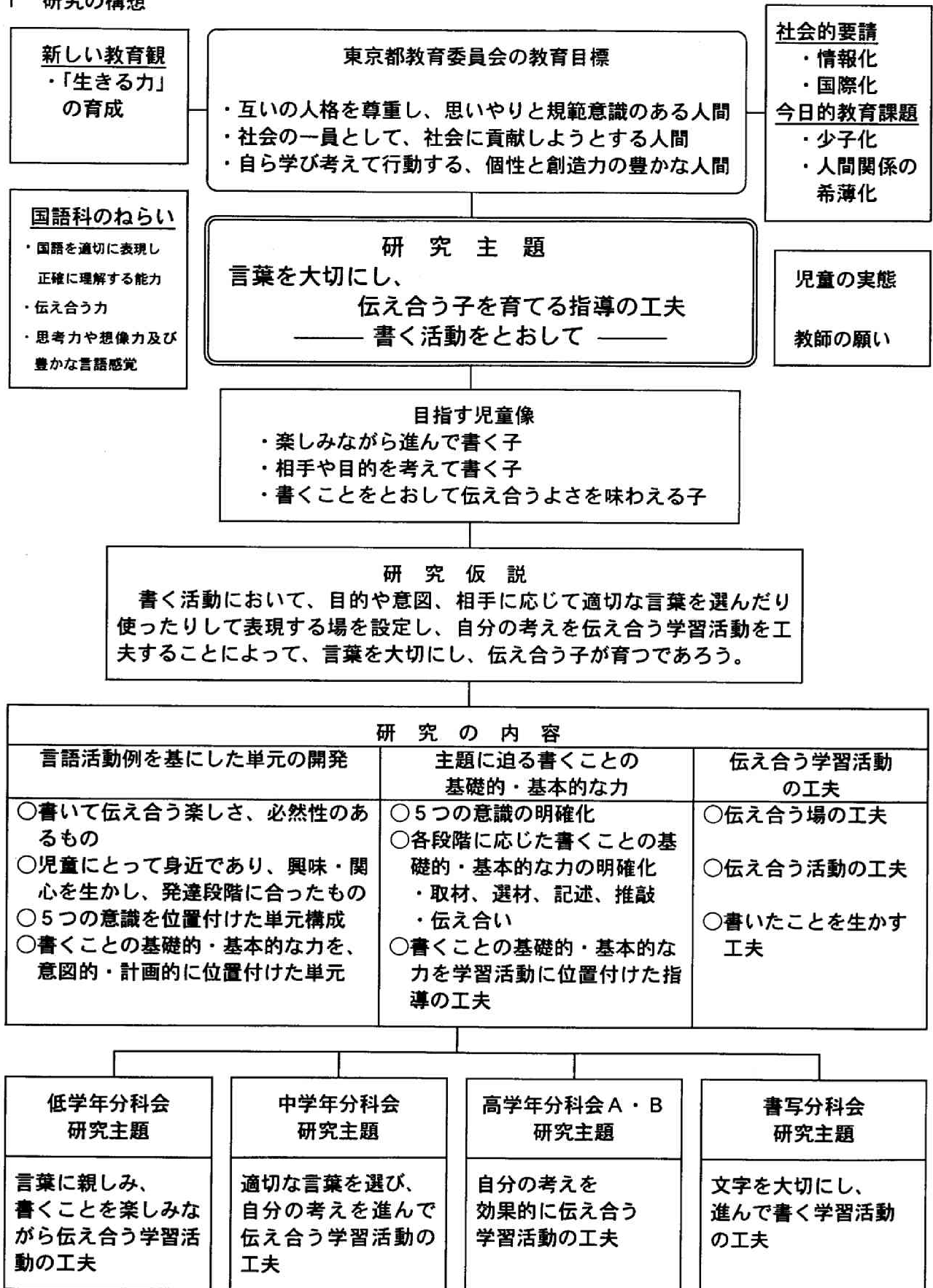
子どもの「伝えたい」という思いや願いを大切にしながら、伝え合う必然性をもたせ、書いたものをとおして伝え合いながら、認め合い、高め合うことができる場と学習活動の工夫を行った。また、書いたものが生かされることによる満足感ももてる学習活動の工夫も行った。

4 書くことをとおして「伝え合う子」



II 研究の概要

1 研究の構想



2 各分科会の研究の概要

	研究主題	目指す児童像	研究仮説
低 学 年	言葉に親しみ、 書くことを楽しみ ながら伝え合う 学習活動の工夫	○書くことを楽しむ子 ○相手に分かるように 書く子 ○伝え合う活動を楽しむ 子	○楽しんで書くことができる場を 設定し、書いたことが役立ったり、 伝え合う機会をもったりする学習 活動を工夫すれば、言葉に親しみ、 書くことを楽しみながら伝え合う 子が育つであろう。
中 学 年	適切な言葉を選び、 自分の考えを 進んで伝え合う 学習活動の工夫	○楽しみながら進んで 書く子 ○自分の考えを、相手に 伝わるように書く子 ○書いたものの内容や 書き方のよさを認め合 い、次に生かそうとす る子	○相手や目的を明確にして、書く ことによって伝え合えてよかった と思える学習活動を工夫すれば、 適切な言葉を選び、自分の考えを 進んで伝え合う子が育つであろう。
高 学 年 A ・ B	自分の考えを 効果的に伝え合う 学習活動の工夫	○伝える相手や目的、意 図を考えながら進んで 書く子 ○自分の考えや意図を 明確に表現するために 工夫して書く子 ○互いの立場や考えを 尊重しながら伝え合う 子	○伝え合う必然性のある場を設定 し、書くことの基礎的・基本的な 力を重視した学習活動と、伝え合 う中で互いに認め合い高め合う学 習活動を工夫すれば、自分の考え や意図を効果的に伝え合う子が育 つであろう。
書 写	文字を大切にし、 進んで書く 学習活動の工夫	○自分の文字に自信をも ち、進んで手書きで 表現する子 ○文字を通して伝え合う ことができる子 ○学んだことを日常生活 に生かせる子	○自分の文字が好きになり、自信 がもてる学習活動を工夫すれば、 文字を大切にし、進んで書く子が 育つであろう。

基本的な考え方	研究内容
<p><言葉に親しむ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉に関心をもち、進んで使うこと。 ○言葉の意味を考えたり、知ろうとしたりすること。 ○言葉のよさに気付き、言葉で表すことを楽しむこと。 <p><書くことを楽しみながら伝え合う></p> <ul style="list-style-type: none"> ○何を、どのように書くかが分かり、進んで書こうとすること。 ○相手を思い浮かべながら、順序が分かるように書くこと。 ○自分が書いたものを相手に読んでもらおうとすること。 ○進んで書き、友達の表現も楽しんで読むこと。 	<p>①単元の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5つの意識 ・ 内容・形式の分類 <p>◇手紙を書くこと (招待状や礼状など)</p> <p>◇調べてまとめること (報告文・説明文・意見文など)</p> <p>◇観察・経験したことをまとめること (記録・報告・新聞など)</p>
<p><適切な言葉を選ぶ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉の意味や正しい使い方を知り、進んで書こうとすること。 ○よりよく伝えるために、読み返し、言葉を選ぶこと。 <p><自分の考えを進んで伝え合う></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを分かりやすく表現したり、相手の考えを受け止めたりすること。 ○考えを交流することによって、互いのよさを認め合うこと。 	<p>②書くことの基礎的・基本的な力</p>
<p><効果的に></p> <ul style="list-style-type: none"> ○5つの意識を明確にもつこと。 ○全体を見通して、書く必要のある事柄を選び整理すること。 ○自分の考えが明確に伝わるように書き方を工夫すること。 ○相手や目的、意図や場面に応じて、より適した言葉を選び使おうとすること。 ○優れた表現に興味をもち、自分の表現に生かそうとすること。 <p><伝え合う></p> <ul style="list-style-type: none"> ○相手や目的を意識し、自分の考えが伝わるように書くこと。 ○相手の考えや意図を理解しながら読むこと。 ○相手の考えに対して自分の考えをもち、伝えようとする事。 ○互いの考えのよさや違いを認め合い、高め合うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主題に迫るための指導事項 (内容・言語事項) ・ 各段階における学習活動に応じた力の明確化 <p>③伝え合う学習活動の工夫</p>
<p><文字を大切に></p> <ul style="list-style-type: none"> ○文字の意味や成り立ちを知り、語いを豊かにすること。 ○目的に応じて、正しく、読みやすく、適切な速さで書けること。 ○手書き文字のよさが分かること。 ○手書き文字に込められた思いを受け止めること。 ○目的に応じて、正しく整った文字が書けること。 <p><進んで書く></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の文字に自信をもち、進んで手書き文字で表現すること。 ○身に付けた書写力を日常生活に生かしていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場の工夫 (相互交流の活動の設定) ・ 伝え合いの工夫 (書いて伝え合うよさや楽しさ、必然性のある内容)

3. 主題に迫る「書くこと」の基礎的・基本的な力

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ア</div> 相手・目的	5 つの意識	①だれに	②何のために
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イ</div> 取 材	【低学年】		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ウ</div> 構 成	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: right; margin-right: 10px;">材推蔽・評価</p> <p>① 書こうとする題材（知らせたいこと、書きたいこと）に必要な事柄を集める。</p> <p>② したことや気付いたこと、自分の身の回りのできごとを言葉にする。</p> <p>③ 様々な感覚（目・耳・鼻・口・心・頭）を使って、感じ取ったことや感動したこと、疑問や想像したことを言葉にする。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 相手の文章を読み返して正しい記述にしようとする</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 相手や目的に応じ、 ② 大事なことは落と ③ 集めた材料について書く必要のある事柄序や軽重を考えて選</p> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">エ</div> 記 述	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 話す経験と結び付け、共感したり聞き返したりしながら（話し合いを通して）書くことを決める。</p> <p>② 伝えたいこと（一番書きたいこと）をはっきりさせる。</p> <p>③ 自分の考えが明確になるように簡単な組み立てを考える。 ・ 書くことの順序を考える。 ・ 文にははじめと終わりがあることを意識して書く。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>② 語と語、文と文のつながりや間違いなどに注意する</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 書きたいことの中落相互の関係を考え ② 事柄ごとのまを ・ はじめ・中・終方 ・ 伝えたい事柄の ・ 自分の考えを明 する。</p> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">オ</div> 伝 え 合 い	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 行動や時間の移り変わりの順序が分かるように書く。</p> <p>② 事柄の順序や語と語、文と文の続き方を考えて書く。</p> <p>③ 主語と述語を照応させて書く。</p> <p>④ 習った文字を正しく書く。＊ ・ 平仮名や片仮名、漢字</p> <p>⑤ 正しい表記で書く。＊ ・ 助詞「は」「へ」「を」、長音、拗音 促音、撥音 ・ 句読点、かぎ「」</p> <p>⑥ 文字を丁寧に書く。＊</p> <p>⑦ 文末表現に気を付けて書く。＊ ・ 丁寧な言葉遣いと普通の言葉遣い ・ 話し言葉と書き言葉</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>③ 書いた文を声を出して読んでみる。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 書こうとすること ② 事実を正しく分か ③ 事実をもとに、自 く。 ④ 段落と段落の続き ・ 事柄ごとのま ⑤ 相手に分かりやす ⑥ 文の構成を適切に ・ 主語・述語、修 ⑦ 文と文、段落と段 て指示語、接続語な ⑧ 相手が読みやすい に打つ。＊ ⑨ 文末表現を工夫す ・ 敬体と常体 現 の書き方 ⑩ 段落の初めや会話 じて改行する。＊</p> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">カ</div> 伝 え 合 い	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(1) 相手のことを考えたり、伝えたいことをはっきりさせたりして書く。</p> <p>(2) 書かれた言葉や文章を正しく読む。</p> <p>(3) 分からなかったところを尋ねたり、違いに気付いたり、感想を言葉にしたりする。</p> <p>(4) 書いた言葉を基にしながら、やりとりを楽しむ。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>④ 書いたもののよいところを見付ける。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(1) 相手のことを考えが伝わるように書く。 (2) 相手の考えを受け (3) 書き手の考えに対する感想を伝えたりする。 (4) 互いの考えのよきめ合い、伝え合うこ</p> </div>
	※印は、言語事項に関する内容		

③どのようなことを

④どのような場で

⑤どのように

【 中 学 年 】

④推蔽・評価

必要な材料を集める
さずにメモをする。
て、目的に応じて
かどうか、また、順
ぶ。

① 読み手の立
場に立って読
み直す。

心が伝わるように段
りを意識して区切り
わりなどの展開の仕
中心を明確にする。
確にしたり深めたり

② 間違いを見
つけ、分かり
やすく直す。

の中心をはっきりさ
りやすく書く。
分の考えや感想を書
方に注意して書く。
まりを意識して書く
い語句を使う。※
して書く。※
飾と被修飾との関係
落のつながりを考え
ように句読点を適切
る。※
在形と過去形 伝聞
の部分など必要に応

③ 足りないと
ころは付け足
す。

④ よい表現に
気付く。

ながら、自分の考え
止めながら読む。
し、質問をしたり、
や書き方のよさを認
との喜びを知る。

る内容

【 高 学 年 】

④推蔽・評価

① 相手や目的・意図に応じて、文章全体の
展開を想定して、材料を集める。
② 考えの根拠となる材料を集め、目的や
意図に応じて、必要のある事柄を適切に
取捨・選択・整理する。

① 段落と文章全体との関係をとらえ、筋道
を立てて文章の構成を考える。
② 考えや思いを明確に表現できる組み立
ての効果を考える。
③ 目的や意図、書く形式に応じて構成の仕
方が変わること理解し工夫を加える。※
・ 読み手の関心を喚起する書き出しと
展開の仕方
・ 中心文の置き方
・ 意見と事実の書き分け方
・ 時間的順序や事柄の入れ替えによる効
果的な述べ方

① 目的に応じた書式・様式（手紙）や、考
えが明確に表現できる書き方（調査文等）
を選択する。
② 事象と感想・意見を区別し、相互の関係
が分かるように書く。
③ 事象を客観的に書く。また、その事象
に裏付けされた考えを書く。
④ 目的に応じて詳しく書いたり、簡単に書
いたりする。
⑤ 考えや思いがより明確に伝わる語句、
事柄にふさわしい語句を選択する。※
⑥ 相手や場面に応じて適切に敬語を使
う。※
⑦ 文末表現を工夫する。※
・ 敬体と常体、現在形と過去形、断定と
推測
⑧ 文と文、段落と段落の関係をつかみ、的
確に指示語・接続語を使う。※
⑨ 文中の語句の係り方や照応の仕方を理解
する。※

(1) 相手の立場を考えて、自分の考えや思い
が伝わるように書く。
(2) 相手の考えや思いをしっかり受け止めな
がら読む。
(3) 相手の考えや思いに対して、自分の考え
をもち、伝えようとする。
(4) 互いのよさや違いを認め合ったり、高め
合ったりする。

※印は、言語事項に関する内容

（高学年主題）

自分の考えを効果的に伝え合う

① 訂正記号を
知り、文や文
章を直す。

② 言葉の正し
さや美しさ、
または、適切
であるかどう
かについて、
気付く。

③ 読み手の立
場に立って読
み直す。

④ 効果的な表
現になっている
部分について、
よさを確認
する。

⑤ さらに改善
できる部分に
ついて、より
よいものにし
ていく。

⑥ 優れた表現
を自分の表現
に役立てる。

4 言語活動例を基にした単元の開発 (1) 単元名 (2) 単元について (3) 5つの意識 (4) ねらい (5) 学習活動

第1学年	第2学年	第3学年
<p style="text-align: center;">絵に言葉を入れること</p> <p>(1) 「あのね」(手紙)</p> <p>(2) 遊びや放課後の生活の中で見付けたこと、したことを友達に知らせる絵と文を書く。書いたものを見せ合い、読んで聞かせ合って友達の書いたことを知る。</p> <p>(3) 友達に知らせたいことをはっきりさせて、分かりやすいように書く。</p> <p>(4) 読んでくれる友達のことを考えながら、楽しく書く。</p> <p>(5) ①一番知らせたいことを絵に描く。 ②その絵のことを思い出して、描いた絵に文を付ける。 ③友達と交換して読み合い、一言ずつ感想を書き合う。 ④もらった感想を読み、文に付け足しを書く。</p>	<p style="text-align: center;">伝えたいことを簡単な手紙などに書くこと(手紙)</p> <p>(1) 「見に来てね」(手紙)</p> <p>(2) 運動会や展覧会、学芸会などの招待状を書く。自分の活動の様子を知らせる文章を添え、見に来てもらう人の返事をもらい、応えることで、学校行事を話題にした伝え合いをする。</p> <p>(3) 自分の活動を見に来てもらいたい人(家族等)に、一番伝えたいことをはっきりさせて書く。</p> <p>(4) 招待状を出す相手のことを考えながら、書く材料を集めて楽しく書く。</p> <p>(5) ①行事に向けての取り組みの様子を知らせる一言日記を書きためる。 ②招待する手紙の書き方を知る。(相手、日時、場所、内容) ③一番伝えたいことを決め、簡単な組み立てを考え招待状を書く。 ④行事後ももらった招待状の返事を読み、一言日記に自分の感想を書き、行事のまとめをする。</p>	<p style="text-align: center;">手紙を</p> <p>(1) 「学芸会の招待状を書こう」(手紙)</p> <p>(2) 学芸会への取り組みの様子を知らせ、読み手が見に来たくなる文章を書くことを知る。通信欄に行事についての感想を相手に書いてもらうことをとおして、伝え合いをする。</p> <p>(3) 家の人にどのようなことを伝えるのか、はっきりさせて書く。</p> <p>(4) はがき(往復)を用い、ある程度形式を踏まえ、大事なことを落とさずに書く。</p> <p>(5) ①学芸会に向けての練習の様子を話し合う。 ②招待状の書き方を学習する。(日時、場所、内容、お誘いの言葉) ③はがきの下書きをする。 ④往信の欄に清書する。 ⑤学芸会后、返信欄を読み、振り返る。</p>
<p style="text-align: center;">先生や身近な人などに尋ねたことをまとめること(情報収集)</p> <p>(1) 「〇〇小でまってるね」(情報収集)</p> <p>(2) 来年入学する1年生に〇〇小の楽しいところを知らせるお手紙を書く。1年間の自分の学校生活を思い出して書く。みんなが書いた文を持ち寄り、入学式に校内に掲示し、「1年生物語」を作る。</p> <p>(3) 新入生に、1年間の学校生活の順序がよく分かるように書く。</p> <p>(4) 1年間の思い出を振り返り、読む人がよく分かるように順序よく書く。</p> <p>(5) ①これまでの主な思い出の中から、新入生に伝えたいできごとをはっきりさせる。 ②写真や絵を入れて、その時のことを文にする。 ③お互いの作品を読み合い、分からないことを尋ねたり、感想を書き合ったりする。 ④書き足したものをみんなの掲示物に仕上げる。</p>		<p style="text-align: center;">自分の疑問に思ったことなどについて</p> <p>(1) 「教えるよコーナーを作ろう」(情報収集・活用)</p> <p>(2) 説明的な文章で、友達に物事を教え、感想・質問を返すことをとおして、相手や目的に応じて適切な言葉を選び、分かりやすく伝え合うことを学ぶ。</p> <p>(3) 友達にどのようなことを教えるかが分かるように書く。</p> <p>(4) ・相手や目的に応じて、説明的な文章で伝え合う。 ・伝えたい事柄を収集したり選択したりする。 ・段落と段落の続き方に注意して書き、小冊子にまとめる。</p> <p>(5) ①自分が教えたいことをカードに書き、掲示し、希望をとり相手を決める。 ②教えて欲しい相手に依頼の手紙を書く。 ③伝えたい事柄を収集、選択し、説明的な文章を書く。 ④③を受け、感想・質問・感謝の気持ちを書く。</p>
<p style="text-align: center;">観察したことを文などに表すこと</p> <p>(1) 「こんなになったよ」(観察・記録)</p> <p>(2) 朝顔の種がとれたので、あげたい人にプレゼントするため花の育て方の説明書付きの袋を作る。文の推敲の段階でお互い読み合ってよりよい表現を目指す。</p> <p>(3) あげたい人に自分の花のことが分かるように書く。</p> <p>(4) 今までの観察や栽培から、心に残ったことを選び、どんな花なのかを楽しく書く。</p> <p>(5) ①観察日記を見ながら、朝顔のお世話を振り返る。 ②花の様子と自分の関わりを思い出し、朝顔の育て方を文にする。 ③プレゼントをあげる相手のことを思い浮かべながら袋に文や絵を書く。 ④友達と文を読み合い、よい表現を認め、自分の文に生かす。</p>		<p style="text-align: center;">経験した事を記録文や</p> <p>(1) 「私のニュース」(新聞)</p> <p>(2) 自分の紹介や、小さかった頃のエピソード、最近のできごとの中から、話題を選び、見出しや割付に気を付け、工夫した新聞を作り、読み合う。</p> <p>(3) 友達に自分のことを知らせる新聞を書く。</p> <p>(4) 話題を決め、内容の中心が読み手に分かりやすい新聞を作る。</p> <p>(5) ①新聞の作り方の基本を知る。 ②家族にインタビューするなど、取材をする。 ③中心をはっきりさせて記事を書く。 ④見出しや割り付けを工夫して、新聞を完成させる。 ⑤互いに感想を書き合う。</p>

第4学年	第5学年	第6学年
<p>書くこと(手紙)</p> <p>(1) 「小さいころの自分をさがそう」(手紙)</p> <p>(2) 10歳の節目を迎える4年生。学年のまとめとして自分の成長の記録を残したい。そのための情報収集の一つの方法として、自分のことをよく知る親しい人に手紙を書き、返事をもらう。</p> <p>(3) 自分はどんな子どもだったか知るために、親しい人に手紙を書く。</p> <p>(4) ・手紙の基本的な形式(表書き、後付けの署名)を踏まえて手紙を書く。 ・書きたいことが伝わるように適切な言葉を選びながら、手紙を書く。</p> <p>(5) ①だれに手紙を書くかを決める。 ②書きたいことがはっきりするよう構成を考え、手紙の下書きをする。 ③友達同士で読み合い、言葉遣いに気を付けて間違いを直し、よりよい表現にする。 ④清書をする。 ⑤表書き、後付けの書き方を知り、手紙を完成させる。</p>	<p>礼状や依頼状などの手紙を書くこと(手紙)</p> <p>(1) 「農林高校〇〇先生へ米づくり体験をお願いします」(手紙)</p> <p>(2) 総合的な学習の時間「米づくり」で実際に田植えや稲刈りを体験したいことを自分の言葉で手紙に書いてお願いする。</p> <p>(3) 農林高校の先生に、米づくりの学習のために、田植えや稲刈りの体験学習をお願いする。</p> <p>(4) ・お願いしたいことを整理し、相手に伝わるように言葉を選んで書く。 ・書式を整え、敬語を使って書く。</p> <p>(5) ①「米づくり」の総合学習を知ることを知る。 ②農林高校の先生に、質問したいことや知りたいことを話し合う。 ③何をどんな順番で書くか考える。 ④季節のあいさつの書き出しなどの手紙の書き出し方を知る。 ⑤自分の言葉で下書きをする。 ⑥自分の思いが伝わっているか読み合う。 ⑦手書きで清書する。</p>	<p>「運動会に来てくださった来賓の方に礼状を書こう」(手紙)</p> <p>(2) 地域の人に運動会の案内状を出す。そして、来てくださった人へ自分たちががんばって取り組んだ様子を添えて感謝の気持ちを手紙に書く。</p> <p>(3) 来賓の方に、感謝の気持ちを伝えるために、お礼の手紙を書く。</p> <p>(4) ・相手に感謝の気持ちが伝わるように、心のこもった効果的な表現を工夫する。 ・書式を整え、敬語を使って書く。</p> <p>(5) ①来賓の方の誰にお礼状を書くかを知る。 ②来校してくださったことへの感謝の気持ちと、運動会ががんばったことを話し合う。 ③気持ちが伝わるように効果的に構成する。 ④構成表にしたがって、下書きをする。 ⑤感謝の気持ちが伝わっているか、読み合う。 ⑥丁寧な文字で清書する。</p>
<p>調べてまとめること(情報収集・活用)</p> <p>(1) 「東京の伝統工芸品を教えてあげよう」(情報収集・活用、手紙)</p> <p>(2) 社会の学習との関連で伝統工芸品について取材し、見出しや割り付けを考えてパンフレットを書く。それを友達同士読み合い、推敲する。また、パンフレットをアメリカにいる友達に送るため、きっかけや調べた感想等を手紙に分かりやすく書く。</p> <p>(3) 東京の伝統工芸品について教えてあげるために、アメリカにいる友達にパンフレットを書く。そのパンフレットを読んでもらうために手紙を書く。</p> <p>(4) ・取材活動を通して必要な材料を集め、書くために必要な材料を集め、書くために必要か考えて選ぶ。 ・基本的な形式を踏まえ、構成を考えて、書きたいことこの中心を押さえたパンフレットを書く。</p> <p>(5) ①アメリカの友達に教えたいたい東京の伝統工芸品を選び、取材する。 ②集めた資料を基にパンフレットの構成を考える。 ③パンフレットを書き、友達同士で推敲する。 ④手紙の書き方を知り、構成を考える。 ⑤中心をはっきりさせて手紙を書く。 ⑥班で手紙を読み合い、感想を伝え合う。</p>	<p>自分の課題について調べてまとめた文章に表すこと(情報収集・活用)</p> <p>(1) 「私の考え」(意見文)</p> <p>(2) 新聞記事を使い、その記事について、自分の主張を述べる。自分の主張と異なる主張を想定することにより、最終的には他者の考えを動かそうとするような意見文を書く。</p> <p>(3) 同じ記事を読んだ友達に、説得力のある自分の考えを意見文として書いて交流し、自分の考えを広げ、深める。</p> <p>(4) ・自分の考えの根拠となる材料や必要な事柄を適切に選ぶ。 ・事象と感想、意見を区別し、事象に裏付けされた意見を書く。</p> <p>(5) ①考えの分かれそうな(議論になりそうな)新聞記事を提示する。 ②自分の考えをもち、構成メモに書きながら自分の主張を明確にする。 ③構成メモをもとに意見交流する。 ④意見交流をもとに、考えが変わったりした点をとらえ、構成メモを完成させる。 ⑤構成メモを基に意見文を書く。 ⑥意見文を紹介し合う。</p>	<p>「縄文人が残したおみやげを紹介しよう」(情報収集・活用)</p> <p>(2) 説明文単元「三内丸山遺跡」の発展学習として、社会科と関連させながら、縄文時代について調べたことをパンフレットにまとめる。パンフレットを5年生に渡す。</p> <p>(3) 5年生に縄文時代について調べたことを伝えるために、分かりやすく楽しいパンフレットを作る。</p> <p>(4) ・縄文時代について調べたことを5年生に紹介するパンフレットを作る。 ・調査の方法(本・資料・インターネット)を知る。</p> <p>(5) ①縄文時代の説明文の学習を発展させ、5年生に分かりやすいパンフレットを作る。 ②調査の方法を知る。(図書館資料の調べ方・インターネットからの情報の集め方等) ③調べたことを分かりやすくパンフレットにまとめる。 (図や写真・見出しの言葉・字の大きさ) ④5年生に読んでもらい、質問や感想をもらう。</p>
<p>学級新聞などに表すこと</p> <p>(1) 「じゃがいものこと教えてあげよう」(記録文)</p> <p>(2) 総合的な学習の時間にじゃがいもを収穫した。来年の3年生に自分たちの調べてきたじゃがいものことを記録文にして渡す。</p> <p>(3) 総合的な学習の時間で調べたことを記録文にまとめ、3年生に伝える。</p> <p>(4) ・調べたことの中から3年生に伝えたい事柄を選ぶ。 ・3年生に伝わるように中心を明確にし、適切な言葉を選んで、記録文を書く。 ・記録文を伝え合う。</p> <p>(5) ①自分が調べたじゃがいものことのメモの中から3年生に伝えたい事柄を選ぶ。 ②構成表を作り、段落相互の関係に気を付けて記録文を書く。 ③友達同士で読み合い、推敲する。 ④清書して、3年生の個人宛てに渡し、読んでもらった後、小冊子にする。 ⑤3年生からの質問や感想をもらい、交流する場を設定する。</p>	<p>経験した事をまとめた記録や報告にすること</p> <p>(1) 「移動教室レポートを書こう」(記録文)</p> <p>(2) 移動教室前に決めた自分の課題に沿って、実際に行ってみて調べたり、集めたりした資料をもとに、移動教室の記録文を書く。</p> <p>(3) 移動教室で体験したこと、学んだこと、さらに調べたことなどを課題に沿って効果的に書き、友達と伝え合う。</p> <p>(4) ・必要な資料を集め、整理して、分かりやすく書く。 ・全体の構成を考え、簡単に書いたり、詳しく書いたりする。</p> <p>(5) ①移動教室での自分の課題を決め、学習計画を立てる。 ②自分の選んだ事柄について、資料を集め、整理する。 ③全体の構成を考え、構成メモを書く。 ④資料やメモをもとに、まとめ方を工夫し(小冊子等)記録文を書く。 ⑤友達と読み合い、表現のよさを見付ける。</p>	<p>「わたしは〇〇小レポート」(報告文)</p> <p>(2) 学校生活で経験したことの中から6年生が来年の5年生に引き継いでいくという目的をもって、委員会では体験したことを自分の考えを入れながら報告文にまとめる。</p> <p>(3) 現在の4年生に来年の委員会活動の参考にしてもらうために、自分が活動してきた様子を報告文にまとめる。</p> <p>(4) ・伝えたいことを明確に表現できる組み立てを考える。 ・経験した事実を客観的に書くことができる。 ・経験から考えたこと、得たことを明確にして書く。</p> <p>(5) ①伝えたい事柄を選択し、組み立てを考える。 ②構成表に沿って事実と考えを区別し、相互の関係が分かるように書く。 ③友達同士読み合い、相手に伝わる適切な言葉であるかを推敲する。 ④相手に興味をもって読むような書き方の形式を工夫して作品を仕上げる。</p>

Ⅲ 各分科会の実践

1 低学年分科会

第2学年

(1) 単元名 「おはなし たんけんたい」(手紙)

(2) 研究主題と単元のかかわり

国語科の学習の中や地域の図書館で、読書を進めるための指導が行われている。そのため、読み聞かせを楽しみにして、放課後、地域の図書館にでかける子も多い。図書館での司書の先生との交流は、児童の読書意欲を高め、読書生活を支えている。そこで、本単元では、ブックトークを聞いた後、司書の先生に自分の感想を書いて伝えることになった。書くことをとおして伝え合う力を育てるために、簡単な手紙の形を学習活動に取り上げた。話し言葉では、すぐ受けて返すことが求められるが、手紙では実際に図書館へ本を借りに行くことを楽しみにしながらじっくり言葉を選ぶことができる。2年生なりに自分の言葉を考えることが、言葉に親しみ伝え合う子の育成につながると考えた。

(3) 学習指導計画の概要(6時間扱い)

時	主な学習活動	主題にかかわる教師のはたらきかけ	
		○指導事項と基礎・基本	●指導上の留意点
1	・司書の方から本の紹介を聞き、感想をもつ。	○お話を楽しんで聞き、お話の世界のたんけんを始めることを告げ、学習の見通しをもつこと。	
2	・紹介していただいた本や、持ち寄った本を読む。	○本を見たり、読んだりして感想を書き、お話の世界を楽しむこと。㊦③	
3	・感想メモを書き発表し合っ て、読みたい気持ちをもつ。	●図書館でもっと本に出会いたいという願いを活かし、司書の先生に伝えたいことを話し合わせる。㊧①②	
4	自分たちが図書館に行く前に伝えたいことを話し合う。 司書の先生にお手紙を書こう。 ・手紙にお礼の言葉を書く。	○司書の先生へ、お礼、感想、図書館へ行く月日、またお願いしたいことや知りたいことなどの内容の手紙を書くこと。㊦③④ ㊧①②	○●相手を意識付け、文末表現に気を付けさせる。㊧⑦
5	・前時に話し合ったことをもとにして手紙の続きを書く。 ・自分の書いた文を発表し合 い、友達の水のよさに気付い たり、書き足したりする。	○必ず書くこと、考えて書くことを知り、簡単な組み立てに従って書くこと。㊧③	○自分の文を読み返すこと。㊦① ○友達の手紙の発表を聞き、よいところを見付け、次時を楽しみに思う気持ちをもつこと。㊦①③④
6	・実際に図書館へ行き、司書の先生の話の聞いたり、尋ねたりしながら、読みたい本を探して読む。	○手紙の中の聞きたいこと、知りたいことについてこたえる司書の先生の話の聞くこと。 ○読みたい本を探し読むこと、課外にも図書館へ来て読書をすすめること。	

2 中学年分科会

第4学年

(1) 単元名 「見つけよう 砧南小の40年」(新聞)

(2) 研究主題と単元の関わり

開校40周年という機会を生かし、開校当時の学校生活と今の学校生活を比較しながら調べていくことは、児童にとって新たな発見があり、興味深いものである。調べたことを学校の内外に広く伝えるために、記念式典当日に掲示できる壁新聞という形をとることで、相手や目的を意識し、言葉に気を付けながら、自分の考えを伝え合う力を身に付けることができる考えた。

(3) 学習指導計画の概要(本時6/9時)

時	主な学習活動	主題にかかわる教師のはたらきかけ ○指導事項と基礎・基本 ●指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・40年前の給食の献立を知り、味わうことをきっかけに、単元のめあてをつかみ学習の計画を立てる。 ・発表の方法とテーマを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手意識、目的意識を明確にもち、学習の見通しをもつこと。ア①② ●開校当時と今の学校の比較から学習課題をつかみ、多様なテーマを考えさせる。
	砧南小の40年を見つけ、新聞に書いて伝えよう	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ別にグループにし、各自の調べたいことを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○テーマに基づき必要な情報を探すこと。イ①
3	<ul style="list-style-type: none"> ・取材の具体的な方法を考える。(メモ、インタビュー、手紙など) 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手に応じた言葉の使い方を考えること。イ① ●具体的な取材のやり方を考え、プリントで例を示し、それを利用して定着させる。
課外	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が調べたいことについて、学んだ方法を基に取材を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大切なことはメモを取ること。イ② ○取材した内容を分類すること。イ③
4	<ul style="list-style-type: none"> ・取材したメモ類を持ち寄り、記事の内容、表現形式を考える。 ・記事の構成表を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○取材内容を整理しながら、割り付けと記事の構成を考えること。ウ① ●段落の関係を考えさせる。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・誰にでも分かるように、新聞記事を工夫して書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の伝えたいことをはっきりさせながら記事を書くこと。エ①
6	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで下書きを読み合い、自分の考えをメモに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の記事のよいところや、直した方がよいところを見つけて書くこと。オ①②④
本時	<ul style="list-style-type: none"> ・メモを基に、記事を書き直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○分かりやすい表現に書き直すこと。エ①オ②
7	<ul style="list-style-type: none"> ・記事の最終的な推敲をする。 ・記事の清書をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の伝えたいことがはっきり書けているか、確かめること。オ①③
8	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの新聞を仕上げる。 ・活動を振り返り、編集後記を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読者が見やすいように仕上げること。ア① ○自分が考えたことや感想を書くこと。オ④
9	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に新聞の宣伝をする。 ・新聞を読み合い、各自の考えや感想を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他のグループの新聞を読み、考えや感想をもつこと。オ④ ●メッセージコーナーを設けさせる。

(4) 本時の学習

①目標

- ・友達の記事のよいところや、直した方がよいところを見つけて書くことができる。
- ・友達の考えや感想を参考にして、分かりやすい記事にすることができる。

②展開

主な学習活動	主題にかかわる教師のはたらきかけ	
	○指導事項と基礎・基本	●指導上の留意点*評価
1 本時の学習のめあてを確認する。	○学習活動のめあてと流れをしっかりとつかむこと。	
友だちの考えや感想を参考にして、分かりやすい記事にしよう。		
<p>・読み合うときの観点を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>昔の学校グループ 昔の学習グループ 昔の学校行事グループ 昔の遊びグループ 昔の生活グループ 昔の町の様子グループ</p> </div>	<p>○新聞の読み手を意識して、分かりやすい記事になっているか確認すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見出しと記事の整合性 ・丁寧な文字 ・読者の興味関心をひく事実 ・文末表現 	<p>●各自が選んだ記事の表現形式によって、観点が違うことを知らせる。</p> <p>●見出しと本文がずれていないか、調べたことが正確に書けているかなどを考えさせる。</p>
2 友達の記事を読み、友達の記事のよいところや直した方がよいところを見つけて、メモに書いて伝える。	<p>○メモ用紙に考えや感想を簡潔に書くこと。</p> <p>○相手の気持ちを考えながら自分の考えや感想を伝えること。㊦①②④(2)(3)</p>	<p>*観点に基づいて、友達の記事のよいところや直した方がよいところを見付けられたか。</p> <p>●記事を書いた友達の思いや考えに配慮させる。</p> <p>*自分の考えや感想を書くことができたか。</p>
3 友達のメモを読んで、分からないことを聞く。	○メモに書いたことに対して質問をすること。㊦③(3)	<p>●うまく伝わらなかったことを言葉で補足させる。</p> <p>●読み合ったときの観点をもう一度意識して、書き直させる。</p>
4 友達の考えや感想を参考にして、自分の記事を直す。	○友だちの考えや感想、記事のよいところを参考にしながら、自分の記事を推敲すること。㊦①㊦②	*分かりやすく書き直せたか。
5 次時の予告を聞く。		●観点に沿って記事を完成させ、清書することを知らせる。

3 高学年A分科会

第6学年

(1) 単元名 「幸せさがしの旅をしよう -宮沢賢治の作品や生き方から-」(意見文)

(2) 研究主題と単元のかかわり

卒業を意識し始めた6年生のこの時期に、宮沢賢治の童話作品に込められた人間や自然に対する考え方、賢治の生き方に触れさせることは、自分の生き方を見つめさせるよい機会となる。互いの考えを学習の中で交流しながら、賢治の生き方と自分の生きる姿勢を対比させる場をもち、効果的な表現を学んだり、考えを広げたり、友達のよさを感じ取ったりして、児童の心の中にある幸せについて自分の考えを書いて表現させたい。

(3) 学習指導計画の概要(本時6/8時間)

時間	主な学習活動	主題にかかわる教師の働きかけ ○指導事項と基礎・基本 ●指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> 宮沢賢治の作品や伝記から、考えたことや気付いたことをスモールシート(自分の意見を書く小さな紙)に書き、交流し合う。 学習に見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○●個々に作品名とその作品から気付いたことをスモールシートに書くこと。(1) ○スモールシートから考えを出し合うこと。(4) ●これからの自分の生き方という目的意識をもたせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 「幸せさがしの旅をしよう -宮沢賢治の作品や生き方から-」 </div>		
2 3	<ul style="list-style-type: none"> 他の賢治作品を読み、これからの学習活動に取り入れたいものを見付け、情報交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●15分×5の活動時間で行わせる。 ○●各自に気付いたことを根拠を明らかにして、スモールシートに書くこと。イ①
4 5	<ul style="list-style-type: none"> 自分に必要な情報を取捨選択し、構成を考える。 自分の考えを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スモールシートの中から書く材料を選びイ②、構成を考えること。ウ③ ●構成シートを用意する。
6 本時 7	<ul style="list-style-type: none"> 賢治の考える幸せとは何かについて、考えを交流し合う。 構成をもとに宮沢賢治の作品や生き方から学んだことを書く。 自分の文章を見直して、書き直したり、書き進めたりする。 書き直したものを互いに読み合い、よさを見付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○交流によって友達の考えを知り、自分の考えと比べること。(3)(4) ○根拠を明らかにし、自分の考えを書くこと。エ② ●読み直すための見直しカードを用意する。
8	<ul style="list-style-type: none"> 「幸せさがしの旅」をとおして、自分の心の中の幸せについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の文章から受け止めたことを、メッセージカードに書いて本人に伝えること。(3)(4)

(4)本時の学習 (6 / 8時間)

①本時の目標

- ・ 交流によって友達のを考えを知り、自分の考えと比べようとする。
- ・ 構成シートをもとに文章を書くことができる。

②展開

主な学習活動	主題にかかわる教師の働きかけ	
	○指導事項と基礎・基本	●指導上の留意点 *評価
1 本時の学習の流れをつかむ。	○学習活動の流れを知り、めあてをもつこと。	●5つの意識を確認させる。
賢治の考える幸せをさがそう。		
2 賢治の考えていた幸せについて交流し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなが幸せであること。 ・ みんなの幸せを願うこと。 ・ みんながみんなを幸せにしたいと願うこと。 ・ 自分ひとりだけが幸せであればよいのではなく、全てのものが幸せであってほしいと願うこと。 ・ 自然の中でみんながかかわり合っていることが分かること。 	○相手の考えに対して自分の考えをもち伝えようとする。こと。(3) ○互いのよさや違いに気づき、認め合ったり高めあったりすること。(4) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>『銀河鉄道の夜』でカムパネルラが「本当にいいことをしたら、本当に幸せなんだね」と言っている。本当にいいこととは、人を幸せにしてあげることだと思う。それが、本当の幸せなんだと思う。 (スモールシートから)</p> </div>	●賢治の作品等の叙述をもとに、幸せについて前時に書いたスモールシートを活用させる。 ●交流によって新たに得たことを構成シートに書き加えたり、スモールシートを貼り替えたりしてもよいことを伝える。 *交流での互いの考えのよさを生かし、発言・構成シートへの書き加え・スモールシートの貼り替えができたか。
3 構成シートをもとに文章を書く。	○根拠を明らかにして自分の考えを書くこと。 エ②	●書き終わった子は読み直したり、友達と交換して読み合ったりさせる。 ●読み直しのための「見直しカード」を用意する。 *構成シートをもとに文章を書くことができたか。
<div style="display: flex; justify-content: space-between; padding: 0 10px;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> <p>はじめ</p> <p>「幸せ」について、みんなに問いかける。</p> <p>本当の幸せ</p> </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> <p>中一</p> <p>賢治が感じた幸せ</p> <p>いちようの実からのスモールシート</p> <p>あらんかぎりの輝き</p> </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> <p>中二</p> <p>賢治が求めた幸せ</p> <p>自分の考え</p> <p>銀河鉄道の夜からのスモールシート</p> <p>中のまとめ</p> <p>うれしいから幸せなんじゃない</p> <p>むすび</p> <p>ぼく自身が光る</p> </div> </div>		
4 次時の学習について確認する。		

4 高学年B分科会

第5学年

(1) 単元名「地球防衛隊からのメッセージ ―かけがえのない地球を守ろう―」(意見文)

(2) 研究主題と単元の関わり

身近な環境を共有している相手と、〈地球を守るために私たちが今、できることは何か〉を教材文「一秒が一年をこわす」の読みと関連させて、互いに考え合うことを目的とした。身近な環境を見つめ自分の考えを論理的に展開し、事象と意見を区別して書くことによって、根拠に裏付けされた説得力のある意見文が書けると考えた。それらの文章を読み合い伝え合うことで自分の意見をしっかりとつとめることができる。また、書き出しの工夫や文末の表現、文と文とのつながりを表す接続語を的確に使うことで効果的に伝える文章が書けると考えた。

(3) 学習指導計画の概要(本時8/9)

時	主な学習活動	主題にかかわる教師の働きかけ ○指導事項と基礎・基本 ●指導上の留意点
1	・教材文を読んで、題名の意味や本文の内容について考える。	○著者の主張と、表現の工夫に気付くこと。 ●環境破壊の事象と著者の意見をとらえながら初発の感想を書かせる。
2	・感想を発表し合い、便利な暮らしと環境について考え学習計画を立てる。	○目的意識を明確にもつこと。ア②③④⑤ ●学習の見通しをもたせる。
地球防衛隊からのメッセージを書こう		
3 ・ 4 ・ 5	・教材文を読み、その文章構成と段落の要旨をつかむ。 ① 科学技術の発達と地球環境の悪化 ② 地球誕生と人類の誕生 ③ 人類のおごりと地球からのしっぺ返し	○意見と事象の書き分けや順序に沿った述べ方などの効果的な構成を知ること。 ウ②③ ●ワークシートに書き込みながら、文章の構成や接続語の役割を考えさせる。 ●要旨をつかませ、見出しを付けさせる。 ●実生活と教材文を結び付けて考えさせる。
課外	・地球を守るために、私たちにできることは何かを考え、主張の根拠となる取材活動を行う。	○文章全体の展開を想定して、根拠となる材料を集めること。イ①② ●体験や実験、インタビューなどをさせる。
6	・構成メモを書き、よい組み立てになるようアドバイスし合う。	○効果的な構成メモを作ること。ウ②③ ●数人で構成メモを読み合い、より伝わりやすい意見の展開を互いにアドバイスさせる。
7	・教材文の筆者から直接お話を聞き、自分の考えを見つめ直す。	●自分の考えをもち、筆者の考えを聞かせたり質問させたりする。
8 本時	・構成メモを完成させ、それをもとに意見文を書く。	○事象とそれに対する意見・感想を区別し、接続語の使い方を工夫して段落相互の関係が分かるように書くこと。エ②③⑦⑧(1)
9	・推敲し、完成した意見文を相手に送る準備をする。	○訂正記号を使って訂正すること。 ●意見文を読み合い、互いの文章を推敲させる。オ①③(2)(3)(4)

(4) 本時の学習 (8 / 9 時間)

① 本時の目標

- ・ 根拠となる事象とそれに対する意見・感想を区別し、伝えようとする主張をはっきりさせて書くこと。

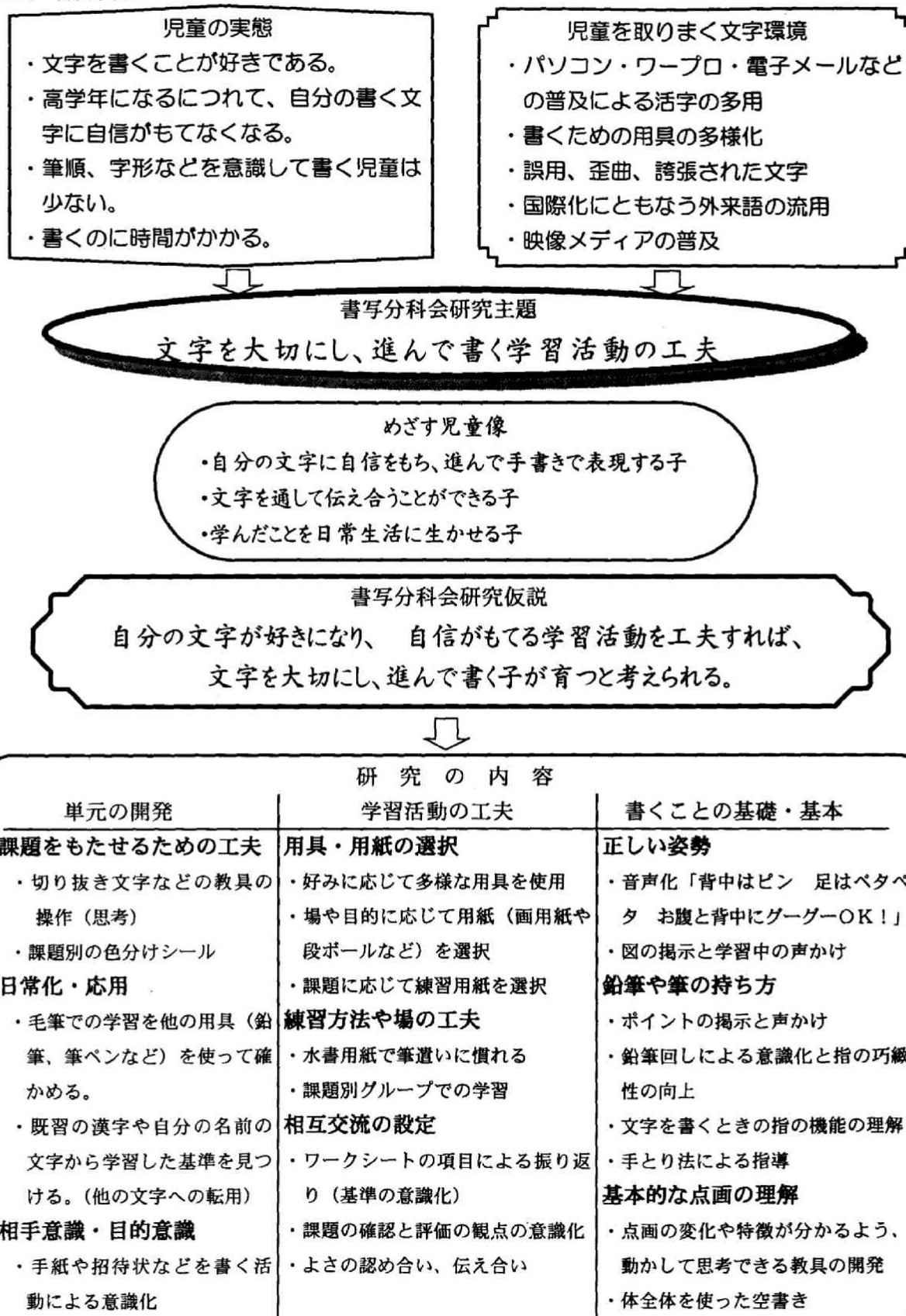
② 展開

主な学習活動	主題にかかわる教師のはたらきかけ	
	○指導事項と基礎・基本	●指導上の留意点 *評価
<p>1 本時のめあてを確認し学習の見通しをつかむ。</p>	<p>○5つの意識を確認すること。 ア①②③④⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭や地域の人に、地域環境を守るために、身近な生活を見つめて今、私たちにできることは何かを考え意見文に書いて伝え合うこと。 ・ 根拠に裏付けされた主張をするために、事象や考えを区別して書くこと。 	<p>●これまでに学習してきたワークシートや教室に掲示してある学習計画表を見て、本時の学習のめあてと内容をつかませる。</p> <p>●効果的に書くために構成メモを使わせる。</p> <p>*目的・相手意識を明確にもつことができたか。</p>
<p>地球防衛隊からのメッセージを書こう</p>		
<p>2 前時の著者との出会いで、考えたことについて意見交流をする。</p> <p>C: 地球は50億年、もつのに、人類は数万年で滅びるなんてもったいない。 C: 金星も温暖化でおどろいた。</p>	<p>○話し合い活動の中で自分の考えをもう一度練り直して確かなものにする。イ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の考えにふれ、自分の意見に反映する。 ・ 著者の意見と自分の考えの共通点や相違点をとらえる。 	<p>●一方的に意見を発表するのではなく、互いの考えにふれて意見を出し合う。</p> <p>*著者の話を聞いたことによって、それに裏付けされた意見を付け加えたり仲間との意見交流を根拠にした考えをもったりすることができたか。</p>
<p>3 構成メモに書き加えたり、書き直したりする。</p> <p>C: 水のよごれについて数字で表すとわかりやすいよ。 C: 伝える人にどんなことをしてほしいのか書くといいよ。 C: 実験の結果から、考えたことをもう少し詳しく書くといいよ。</p>	<p>○効果的な文章を書くために、根拠となる事象や自分の主張を最終確認すること。</p> <p>○自分の主張を明確に表現できる組み立ての効果を考える。ウ③</p>	<p>●改めて気付いた、根拠となる事象や自分の考えがあれば書き加えさせる。</p> <p>●付け加えたいことがあったら色付箋をつけ、順序を変えたい時は赤線の矢印で示させる。</p> <p>*意見の交流を生かして、考えが明確に表現できる組み立てになっているか。</p>
<p>4 構成メモをもとに、意見文を書く。</p>	<p>○効果的に書くこと。エ③⑦⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 説得力のある文章にすること。 ・ 優れた表現を自分の表現に役立てること。オ⑥ 	<p>●構成メモをもとにして書かせる。</p> <p>*接続語や書き出し、文末の工夫をしているか。</p> <p>*起承転結の段落構成ができていくか。</p>
<p>5 早く書けた友達の意見文を聞く。</p>		

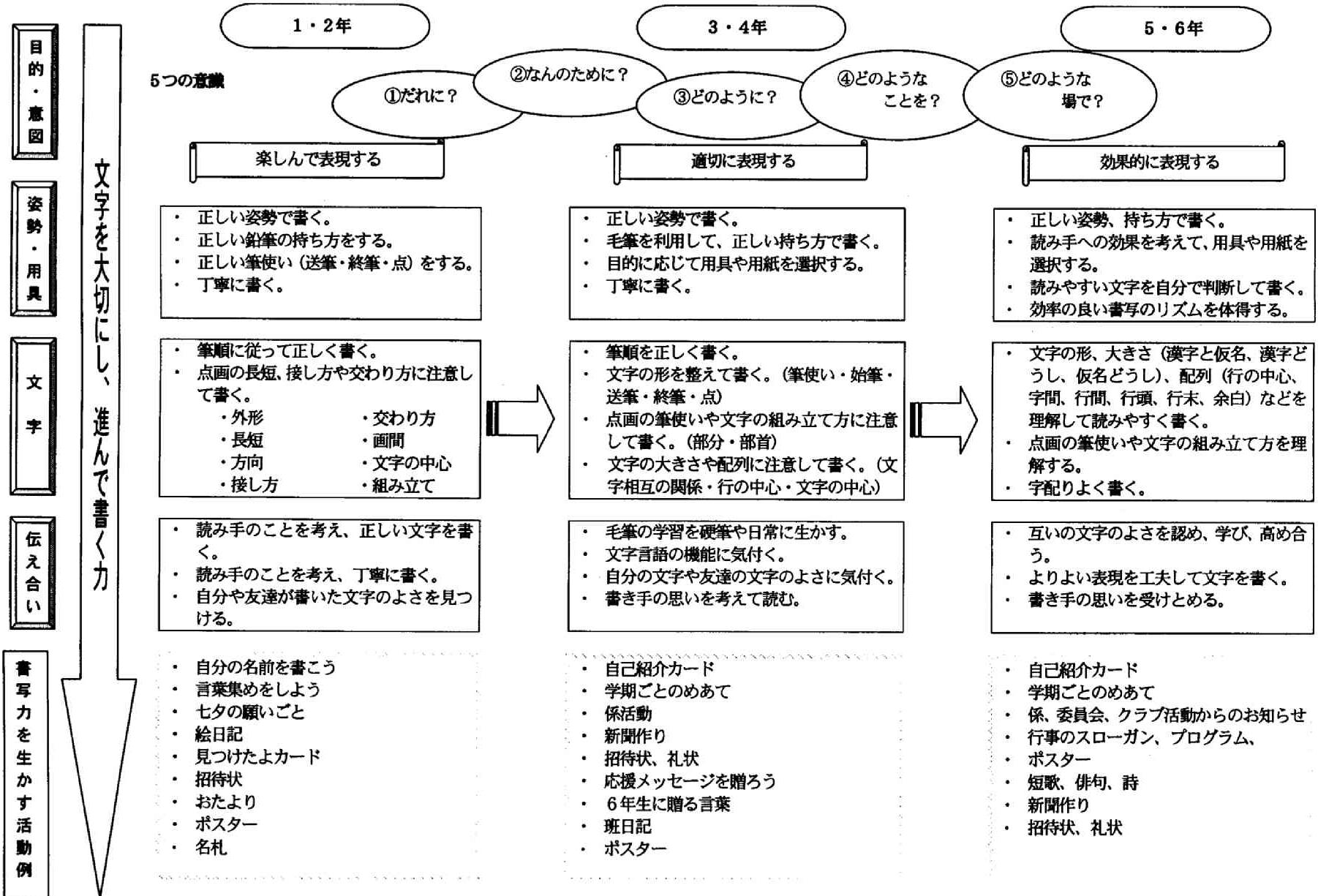
Ⅳ 書写分科会の研究内容と実践

1 研究内容と主題に迫るための基礎・基本

(1) 研究内容



(2) 主題に迫る基礎的・基本的な力



2 書写分科会の実践

第2学年

(1) 単元名 「たてなが よこなが どっちかな」(教材文字「時・早」)

(2) 研究主題と単元のかかわり

手作りの心をこめた招待状には丁寧に文字を書こうという意欲がわいてくる。そして、招待状を送る人に喜んで読んでもらうためには、正しい文字を書く必要がある。そこで、「展覧会の招待状を書こう」という学習を設定した。単元での学習を通して、相手の立場に立って書き、喜ばれる体験をすることが、さらに文字を進んで書こうとする意欲につながると考えた。そのため以下のような手だてを行った。

- ・スケールシートの活用・・・常にスケールシートを使用し、文字の形に着目してお手本や自らの文字を確認するのに役立った。
- ・ワークシートの工夫・・・練習、まとめ、振り返りができ、補助線の選択ができるワークシートを工夫した。
- ・基本的な点画の理解・・・字形の変化が分かりやすいよう、動かせる教具を開発し、児童が文字の形を意識化できるようにした。また、学習課題をできるかぎり絞ることで、児童のめあてを明確にし、課題解決がしやすく、自信につながるよう配慮した。学んだことを他の文字にも広げていくことで、日常化を図った。

(3) 学習指導計画の概要(6時間扱い)

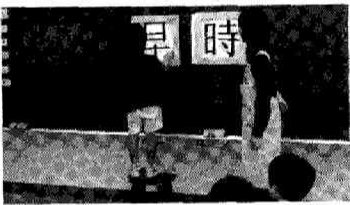

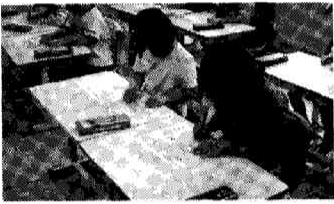
時	主な学習活動	主題にかかわる教師のはたらきかけ ○指導事項と基礎・基本 ●指導上の留意点
1	・展覧会の招待状を書くことを知る。 ・文字のだいたいの形に気を付けて書く。	●学習の見通しをもたせる。 ○文字の外形を意識し、注意して書くこと。
2	・一文字から文字の部分になることによる形の変化に気付く。「時」「早」	○「日」の形が他の文字の部分になると形が変わることに気付くこと。 ●他の文字についても形の変化に気付かせる。
3	・「木」「土」などが文字の部分になったときの点画の変化に気付き、練習する。	○「木」や「土」が他の文字の部分になったときの点画の変化に気付くこと。 ○「糸」「竹」など他の文字についても調べ、練習させる。
4	・片仮名の表から、外形を分類し、意識して書く。	○片仮名の表の中から、外形の仲間分けをすること。
国語生活	展覧会の招待状を書こう ・文字の形を意識して、展覧会の招待状を書く。 ・もらう人が喜ぶようなメッセージを書く。	●生活科の学習と合科で扱う。 ●誰に招待状を書くのかをはっきりさせる。 ○文字の外形や部分の形を意識しながら文字を書くこと。 ○読む人のことを考えて、丁寧に正しい文字を書くこと。

(4) 本時の学習 (2 / 6 時間)

①目標

- ・部分の組み合わせ方によって文字の形が変化することに気付き、進んで学習することができる。
- ・正しい姿勢、鉛筆の正しい持ち方で書くことができる。

②展開

主な学習活動	主題にかかわる教師のはたらきかけ	
	○指導事項と基礎・基本	●指導上の留意点 *評価
<p>1 ウォーミングアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい姿勢、鉛筆の正しい持ち方で運筆を練習をする。 	<p>○正しい姿勢、用具の持ち方で書くこと。</p>	<p>●音声、言語化で確かめさせる。</p>
<p>たてなが よこなが どっちかな ～字の形に気をつけて書こう～</p>		
<p>2 学習のねらいを知る。</p> <p>①教材文字を試し書きする。</p> <p>②「日」の形の変化について話し合う。</p> 	<p>○文字の部分になったときに形が変化することに気付くこと。</p>	<p>*正しい姿勢、持ち方ができているか。</p> <p>●形の変化が意識できるよう、教具を使って実際に文字を動かさせる。</p> <p>*文字の変化に気付くことができたか。</p>
<p>3 練習する。</p> <p>①筆順の確認をする。</p> <p>②用具を選択し、めあてにしたがって練習する。</p> 	<p>○めあてを意識しながら練習すること。</p> 	<p>●空書きで筆順を確かめる。</p> <p>●自分の好みに応じて用具や用紙を選択する。</p> <p>*文字の変化を意識して練習しているか。</p> <p>*ていねいに文字を書いているか。</p>
<p>4 学習したことを振り返る。</p> <p>①まとめ書きをする。</p> <p>②学習の成果を振り返る。</p>	<p>○自己評価の項目にしたがって、自分の学習の成果や友達のよいところを見付けること。</p>	<p>●めあてを振り返らせることで、評価の観点を意識させる。</p> <p>●学習した文字だけでなく、他にもあることを確認し、他の文字にも応用できるようにさせる。</p>
<p>5 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の文字の変化している部分を見付け、今日学習したことをまとめる。 	<p>○同じように「日」や「言」が部分になる文字の変化に気付くこと。</p>	

V 研究の成果と課題 (①成果・②課題)

1 低学年分科会

- ①書くことの基礎的・基本的な力を明確にしたことは、今後書くことの指導を指導者自ら分析する指標となった。また、伝え合う子を目指し、各単元を開発、実践したことで、児童が楽しく学習する中で、様々な相手や目的、場面で書いて伝え合う活動を多く開発できた。
- ②書くことは楽しいが、思いをうまく表現できないという児童がいる。また、書く間に相手意識・目的意識があいまいになってしまう児童もいるので、指導の工夫を重ねていく。

2 中学年分科会

- ①各単元の中で、書いたものを誰かに読んでもらう場を常に設定し、相手意識を明確にしたことによって児童が導入から意欲をもち、終末まで持続することができた。
- ②書くことの基礎的・基本的な力について研究してきたが、手紙、新聞、記録文だけでなく様々な形式における基礎的・基本的な力について、さらに明らかにしていく。

3 高学年A分科会

- ①相互交流の場を設定することにより、自分の考えをもって伝えることや、相手の考えを受け止めることを意識するようになった。また、そのことを書くことに生かすことで、内容に広がりや深まりがみえてきた。
- ②よりよい伝え合いをしようとする意識をもつために、児童にその必然性が分かるような学習活動をこれからさらに計画し、意図的・計画的な指導の開発を行っていく。

4 高学年B分科会

- ①書くことの基礎的・基本的な力を付ける学習活動をとおり、児童の書き方の幅が広がり、意欲的に文章を書くことにつながった。目的や意図に通じる5つの意識を明確にしたことが、価値ある調査・取材活動を生み、効果的な表現を工夫する上で役立った。
- ②効果的な書き方を支える基礎的・基本的な力を身に付けさせるには、様々な学習活動を工夫する必要がある。どのような学習活動を行えば、書くことの基礎的・基本的な力のどの部分が身に付くのか検証を続ける。

5 書写分科会

- ①目的や相手を意識したことで、正しく整った文字を書こうとする意欲につながった。学習のめあてを明確にし、教具や練習用紙を工夫することで書写力が向上した。
- ②書写学習で身に付けたことを、書写の時間にとどまらず、他教科や生活の様々な場面でどう生かしていくか、単元構成や学習活動の工夫がさらに必要である。

6 全体をとおした成果と課題

- ①書くことの基礎的・基本的な力を付ける学習活動をとおり、児童はどう書いたらよいかを知り、言葉を大切にし、意欲的に書こうとした。また、言語活動例を基にした単元の開発をする際に、5つの意識を明確にし、書いたものとおして交流する場を設けることで、認め合い、高め合いながら書くことのよさを味わうことができた。
- ②書く活動をとおして伝え合うためには、書き手が書いたものを読み、受け手が書いて返す部分の学習活動についてさらに研究を深める必要がある。また、身に付けた書く力を他教科や日常生活に生かす姿勢をもたせるために、今後も単元開発を行っていく。

平成13年度教育研究員研究報告書

〔東京都教育委員会印刷物登録〕
平成13年度 第41号

平成14年1月23日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1976

印刷会社名 株式会社 ドウ・アーバン